

情報連絡員総括表（2022年10月）

— 静岡県中小企業団体中央会 —

本書は、静岡県中小企業団体中央会が委嘱した情報連絡員〔協同組合等の役職員 60 名〕による毎月の景況調査の集計結果です。

1. 概況報告
2. 項目別の前月・今月のDI 値の比較
3. 情報連絡員からの報告
4. 中央会・行政への要望
5. 主要三指標におけるDI 値の推移（グラフ）

・本調査の見方・

◎売上高等の9項目につき 前年同月と比較し、好転・不変・悪化 のいずれかを回答

$$DI \text{ 値} = [(好転組合数 - 悪化組合数) / 調査対象組合数] \times 100$$

※全項目が前年同月比「不変」となった場合は、DI 値は基準値 ±0.0 (=横ばい) で推移
 ※「在庫数量」のみ、プラス値が高いほどマイナス要因と定義

1. 概況報告 （回答者数 59 名：回収率 98.3%）

○2022年10月のDI 値は、前月との比較において、主要3指標である「売上高」「収益状況」「業界の景況」を含む6指標が改善。「在庫数量」が横ばい、「資金繰り」「設備操業度」が悪化した。全体的に改善傾向となったが、製造業、非製造業で温度差がみられ、製造業において原材料価格の高騰による収益低下等を背景に厳しい状況があらわれている。

○「製造業」では、前月との比較において、「収益状況」「業界の景況」を含む5指標が改善。「売上高」「在庫数量」「設備操業度」が悪化、「取引条件」は横ばいとなった。幅広い製造分野で原材料やエネルギーコストの高騰、価格転嫁に苦慮する状況が続いており、「収益状況」はマイナス46.7ポイントと非製造業のマイナス10.4ポイントを大きく下回っている。「売上高」「業界の景況」においても非製造業を20ポイント以上下回る結果となった。

輸送用機械器具製造業からは「原材料など製造原価が加速度的に高騰している中で、取引先への価格交渉が容易にできない」とのコメントが寄せられた。

○「非製造業」では、前月との比較において、「売上高」が27.6ポイントと前月3.4ポイントを大きく上回るなど6指標が改善。「販売価格」が横ばい、「資金繰り」が悪化した。ヒトやモノの動きが活発化してきたことで売上が戻りつつある状況が伺える。今後の人手不足を心配する声もあがっている。

道路旅客運送業からは「僅かではあるが人の動きが出始めて旅客需要も増えてきているようである。一方でコロナ第8波を懸念する声も出ている」とコメントが寄せられた。

(DI 値)

	売上高	在庫数量	販売価格	取引条件	収益状況	資金繰り	設備操業度	雇用人員	業界の景況
2022年10月	10.2	-6.8	35.6	-13.5	-28.9	-27.1	-10.0	-5.1	-30.5
2022年9月	0.0	-6.8	27.1	-16.9	-37.2	-23.7	-6.7	-10.1	-37.3
増減	10.2 ↑	0.0 -	8.5 ↑	3.4 ↑	8.3 ↑	-3.4 ↓	-3.3 ↓	5.0 ↑	6.8 ↑

2.項目別の前月・今月のDI値の比較

		製造業				非製造業				全体			
		DI値	増減		DI値	増減		DI値	増減				
売上高	2022年10月	-6.7	-3.4	ポイント	↘	27.6	24.2	ポイント	↗	10.2	10.2	ポイント	↗
	2022年9月	-3.3				3.4				0.0			
在庫数量	2022年10月	-3.3	6.7	ポイント	↘	-14.3	-14.3	ポイント	↗	-6.8	0.0	ポイント	-
	2022年9月	-10.0				0.0				-6.8			
販売価格	2022年10月	23.3	16.6	ポイント	↗	48.3	0.0	ポイント	-	35.6	8.5	ポイント	↗
	2022年9月	6.7				48.3				27.1			
取引条件	2022年10月	-20.0	0.0	ポイント	-	-6.9	6.9	ポイント	↗	-13.5	3.4	ポイント	↗
	2022年9月	-20.0				-13.8				-16.9			
収益状況	2022年10月	-46.7	3.3	ポイント	↗	-10.4	13.8	ポイント	↗	-28.9	8.3	ポイント	↗
	2022年9月	-50.0				-24.2				-37.2			
資金繰り	2022年10月	-36.6	0.1	ポイント	↗	-17.3	-6.9	ポイント	↘	-27.1	-3.4	ポイント	↘
	2022年9月	-36.7				-10.4				-23.7			
設備操業度	2022年10月	-10.0	-3.3	ポイント	↘					-10.0	-3.3	ポイント	↘
	2022年9月	-6.7								-6.7			
雇用人員	2022年10月	-6.7	3.3	ポイント	↗	-3.4	6.9	ポイント	↗	-5.1	5.0	ポイント	↗
	2022年9月	-10.0				-10.3				-10.1			
業界の景況	2022年10月	-43.3	3.4	ポイント	↗	-17.2	10.4	ポイント	↗	-30.5	6.8	ポイント	↗
	2022年9月	-46.7				-27.6				-37.3			

今月の業種別回答件数

		売上高		在庫数量		販売価格		取引条件		収益状況		資金繰り		設備操業度		雇用人員		業界の景況			
		増加	減少	増加	減少	上昇	悪化	好転	悪化	好転	悪化	好転	悪化	上昇	悪化	増加	減少	好転	悪化		
製造業	食料品	0	1	0	1	1	0	0	0	0	2	0	2	0	0	0	0	0	2		
	繊維工業	1	0	0	1	1	0	1	1	1	1	0	2	0	0	0	1	1	0		
	木材・木製品	1	2	0	1	1	0	0	2	0	3	0	2	0	2	0	0	0	3		
	紙・紙加工品	0	0	0	0	1	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1		
	印刷	0	1	0	0	1	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	1		
	窯業・土石製品	2	1	0	1	3	0	1	0	0	1	0	1	0	2	0	1	0	0		
	鉄鋼・金属工業	2	1	0	0	0	1	0	1	0	3	0	2	1	1	0	1	0	3		
	一般機器	0	3	0	0	0	0	0	1	0	3	0	2	0	1	0	0	0	3		
	電気機器	1	0	1	0	0	0	0	0	1	0	1	0	1	0	1	0	0	0		
	輸送用機器	2	2	2	0	1	1	0	2	2	3	1	1	2	1	2	2	2	3		
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
非製造業	卸売業	2	0	1	0	2	0	0	1	1	1	0	0	X							
	小売業	2	2	0	2	3	1	1	1	1	3	0	2					0	1	0	2
	商店街	3	1	0	1	4	1	0	1	1	1	1	1					0	1	2	1
	サービス業	3	0	X		2	0	0	1	3	1	0	1					1	0	3	1
	建設業	1	2			2	1	1	1	0	3	0	0					0	0	0	0
	運輸業	3	1	4	0	1	0	1	0	1	1	0	2					1	1	1	2

3.情報連絡員からの報告

製造業

水産食料品	<ul style="list-style-type: none"> ・電気料金に係る賦課金、燃油調整費の高騰が大きな負担になっている。 ・電力費・ガス料金の値上げ分が販売価格に転嫁しきれず苦しい状況が続いている。取引先と交渉の末、値上げに漕ぎ着けてもインフラコストの値上がりペースに追い付かない。原料に関しても不漁が続き、組合員側では生産数量減が避けられず、組合共同施設の利用が落ちれば利用料収入の減少となり、出口の見えないトンネルを走っている様に感じる。
パン	<ul style="list-style-type: none"> ・小麦粉価格は据え置かれたものの、他の原材料費は高騰している。販売価格の値上げは大手製パン会社の動向を見て、大手が値上げした1~3か月後が中小パン製造会社の値上げのタイミングとなる。
織物業	<ul style="list-style-type: none"> ・3年ぶりに受注が入りだした。受注ロットはまだまだ少ないものの綿素材全般に受注が入った。この状況が続くかは不透明。円安に伴い原材料高、加工高で製品単価がアップし、継続的に売上が伸びるか未知数な状況である。
宗教用具	<ul style="list-style-type: none"> ・前年比プラス23%増(売上高)となったが、内10%が値上げによる為で実質は13%増位だと推察する。海外生産での輸入は、円安と運送費等の高騰により原価が高くなっている。
製材業、木製品	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な要因による建築市況の悪化が懸念される局面ではあるが、製材業の稼働率はそこそこ維持している。
印刷	<ul style="list-style-type: none"> ・用紙、副資材が大幅に値上がっている。 ・資金繰りが厳しくなっている。
骨材・石工品等	<ul style="list-style-type: none"> ・電気代が高すぎる。コストアップにより売り上げが増えても収益が変わらない。
金属製品	<ul style="list-style-type: none"> ・円高によるエネルギー、原材料高により、収益状況が著しく悪化している。 ・エネルギーの高騰、原材料の高騰
生産用機械器具	<ul style="list-style-type: none"> ・材料費の値上げに対して、客先への価格交渉とタイムラグが発生しているため、短期的には収益悪化が見られる。 ・高齢化が進み人手不足が進んでいる。 ・EV関連、省エネ設備の受注は相応にあるものの、歴史的な円安がどこまで進むのか、設備投資は様子見の兆候がある。
電気機械器具	<ul style="list-style-type: none"> ・大型冷蔵庫は、販売好調により高水準の生産が継続している。 ・家庭用エアコンは、輸入部品の調達状況の改善が進み、部材調達難の昨年と比べ大幅な増加となった。 ・業務用エアコンは、欧米向けの需要拡大により輸出が増加している。
輸送用機械器具	<ul style="list-style-type: none"> ・原材料など製造原価が加速度的に高騰している中で、取引先への価格交渉が容易にできない。それどころか、現行価格での提案を求められ、付帯的仕事量が大きな負担となっている。 ・まだ安定した生産状況には至っていないが、徐々に回復してきている。ただ、受注部品により企業間で繁閑のバラツキは出ている。 ・10月期カーメーカーの生産調整実施(半導体不足)により2割程度の生産減少となっている。T社の生産計画に於いても減産分の挽回は行わないとの情報があり、生産計画は下降修正となっている。

非製造業

セメント卸売業	<ul style="list-style-type: none"> ・10月の出荷は、山間地の道路災害復旧工事等の公共関連工事発注が寄与し、2か月振りに前年同月を上回った。
鮮魚小売業	<ul style="list-style-type: none"> ・小売・卸売業ともに週末を中心にコロナ前の水準に戻りつつあるが、原材料等の上昇により収益力については懸念される。販売価格のさらなる値上げを考慮しなければならない状況。

各種商品小売業	・3年も続いたコロナ禍は一向に出口戦略が見えなく、消費者のマインドも戻らない。今後は商店街は淘汰されていくと考えている。
	・10月20日から11月20日まで「お街ゼミな〜」を3年ぶりに開催し好調なスタートをきった。また、キャッシュレス決済のポイント還元キャンペーンなどもあり、少しずつ売り上げが戻っている。イベントでは、10月29日と30日に3年ぶりの「おまちdeハロウィン」を開催。2日間で子供と保護者5,000人以上が参加店舗を回遊した。
	・10月より市内のプレミアム付きクーポン券が使用開始になり、少し消費が活発になってきているように感じる。また、観光客も少しずつ増えている感がある。
宿泊業	・全国旅行支援事業の実施により、観光客・宿泊客の増加がみられた。多くの宿泊施設が人手不足の状態となっている。
総合工事業	・資材の値上げが毎月のように続いている状況。来年1月発行の新カタログでは10~20%価格が上昇するとの連絡が数社から届いている。
	・元請けからの見積案件が減っている。何件かの取引先に様子を聞くとやはり減っているとのことだった。現状は忙しく稼働している同業者が多いが、この先中堅以下の工場は仕事が減少傾向にあると思う。
職別工事業	・現場規模が大型化していることに加え、週休2日体制への移行の影響、他地方での多忙な状況などの要素が重なり、人手不足感が顕著になっている。受注価格は上昇しているものの、労務費の高騰もあり、状況としては必ずしもいいとは言えない。今後、まだまだこの状態は続きそうだが、抜本的な解決策はなさそう。専門工事業の労務状況はひっ迫しているにもかかわらず、ゼネコン各社はまだまだ受注意欲が高く、受発注に温度差が出ている。
道路貨物運送業	・荷物情報は昨年と比較し増加傾向である。しかし、月初や連休明けは荷動きが減少するなど、繁閑の差が激しい。運賃に関しても若干ではあるが上昇傾向となってきている。今後、景気が回復してきた場合のドライバー不足が懸念される。
	・トラック維持に係る経費が上昇している、運賃値上げよりも経費の上昇が高く追いついていない。
	・12月の繁忙期に向けて、早くから荷主は車両確保に向け準備している様子。仕事量は安定しているようであるが、長引く燃料高により収益は順調ではなく感じる。
道路旅客運送業	・人の動きを抑制する施策が緩和され、旅行支援策も再スタートするなど、僅かではあるが人の動きが出始めて旅客需要も増えてきているようである。一方で「コロナ第8波」を懸念する声も出てきており、まだまだ予断を許さない状況である。引き続きガイドラインに沿った感染防止対策を取りつつ対応していく必要がある。

4. 中央会・行政への要望

各種商品卸売業

- ・がんばろう商店街（旧GOTO商店街）が再開されたが、応募期間と事業実施期間の短さは何とかならないだろうか。

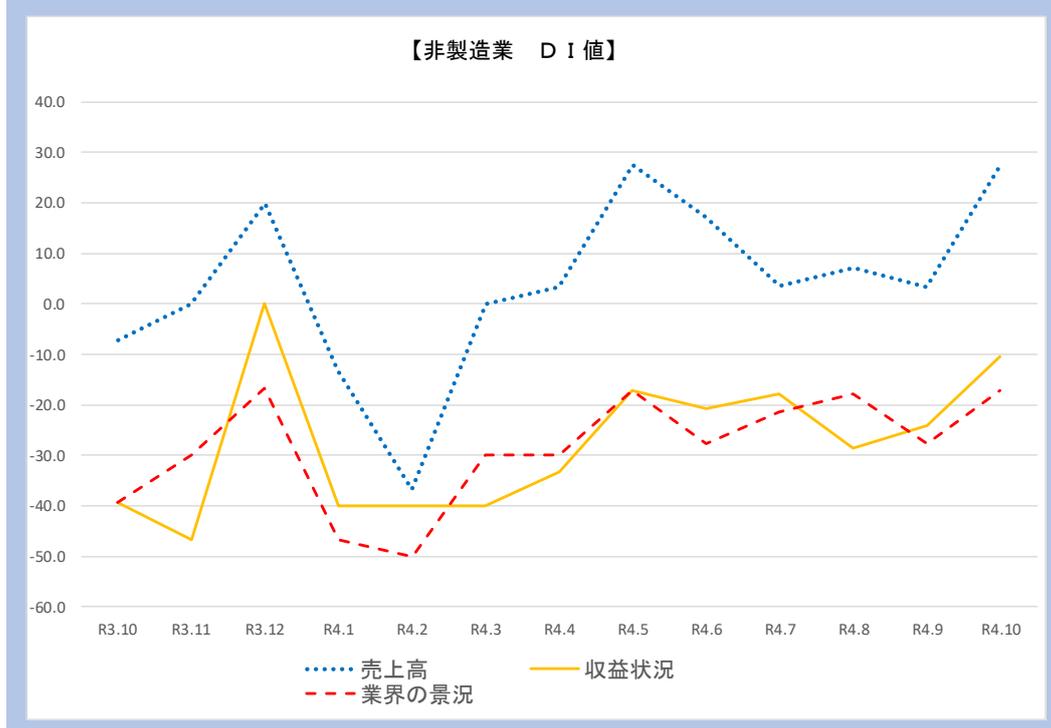
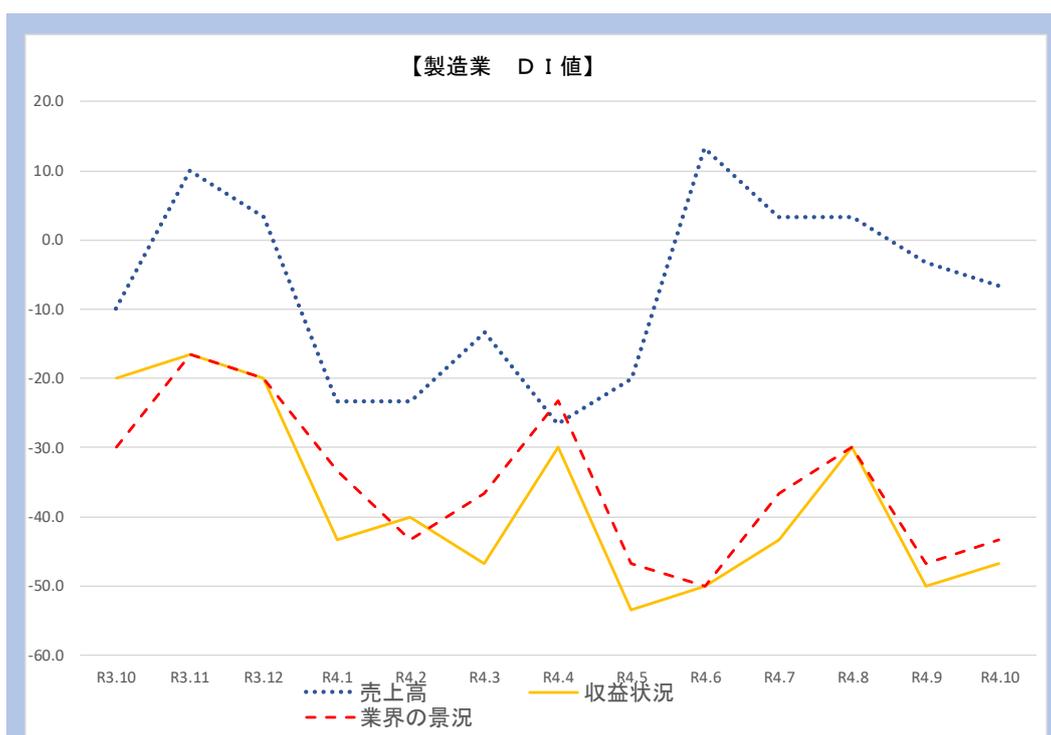
5. 主要三指標における DI 値の推移

■2021年10月期～2022年10月期までの推移

全体	R3.10	R3.11	R3.12	R4.1	R4.2	R4.3	R4.4	R4.5	R4.6	R4.7	R4.8	R4.9	R4.10
売上高	-8.6	5.0	11.7	-18.3	-30.0	-6.6	-11.7	3.4	15.3	3.5	5.2	0.0	10.2
収益状況	-29.4	-31.7	-10.0	-41.7	-40.0	-43.3	-31.7	-35.6	-35.5	-31.0	-29.3	-37.2	-28.9
業界の景況	-34.5	-23.4	-18.4	-40.0	-46.6	-33.4	-26.7	-32.2	-39.0	-29.3	-24.1	-37.3	-30.5

製造業	R3.10	R3.11	R3.12	R4.1	R4.2	R4.3	R4.4	R4.5	R4.6	R4.7	R4.8	R4.9	R4.10
売上高	-10.0	10.0	3.3	-23.3	-23.4	-13.3	-26.6	-20.0	13.3	3.3	3.3	-3.3	-6.7
収益状況	-20.0	-16.6	-20.0	-43.3	-40.0	-46.7	-30.0	-53.4	-50.0	-43.3	-30.0	-50.0	-46.7
業界の景況	-30.0	-16.6	-20.0	-33.4	-43.4	-36.7	-23.3	-46.7	-50.0	-36.6	-30.0	-46.7	-43.3

非製造業	R3.10	R3.11	R3.12	R4.1	R4.2	R4.3	R4.4	R4.5	R4.6	R4.7	R4.8	R4.9	R4.10
売上高	-7.1	0.0	20.0	-13.3	-36.7	0.0	3.3	27.6	17.3	3.5	7.1	3.4	27.6
収益状況	-39.3	-46.7	0.0	-40.0	-40.0	-40.0	-33.3	-17.2	-20.7	-17.8	-28.5	-24.2	-10.4
業界の景況	-39.3	-30.0	-16.6	-46.6	-50.0	-30.0	-30.0	-17.2	-27.6	-21.4	-17.8	-27.6	-17.2



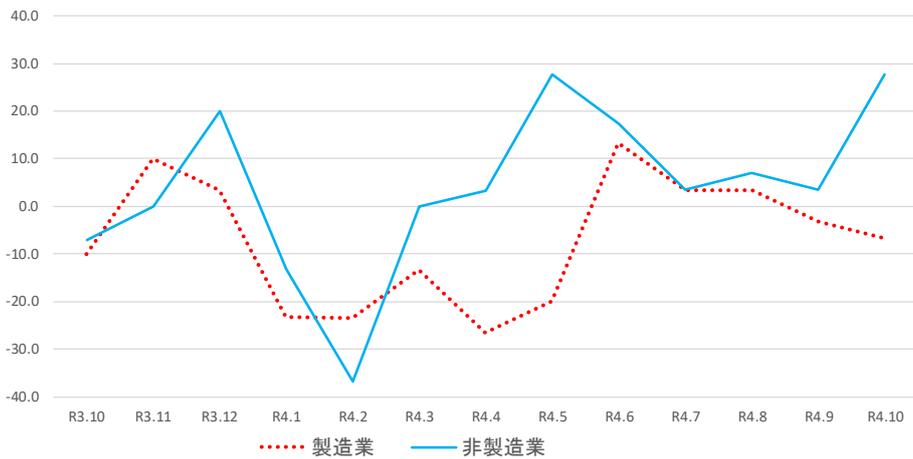
■2021年10月期～2022年10月期までの推移

売上高	R3.10	R3.11	R3.12	R4.1	R4.2	R4.3	R4.4	R4.5	R4.6	R4.7	R4.8	R4.9	R4.10
製造業	-10.0	10.0	3.3	-23.3	-23.4	-13.3	-26.6	-20.0	13.3	3.3	3.3	-3.3	-6.7
非製造業	-7.1	0.0	20.0	-13.3	-36.7	0.0	3.3	27.6	17.3	3.5	7.1	3.4	27.6

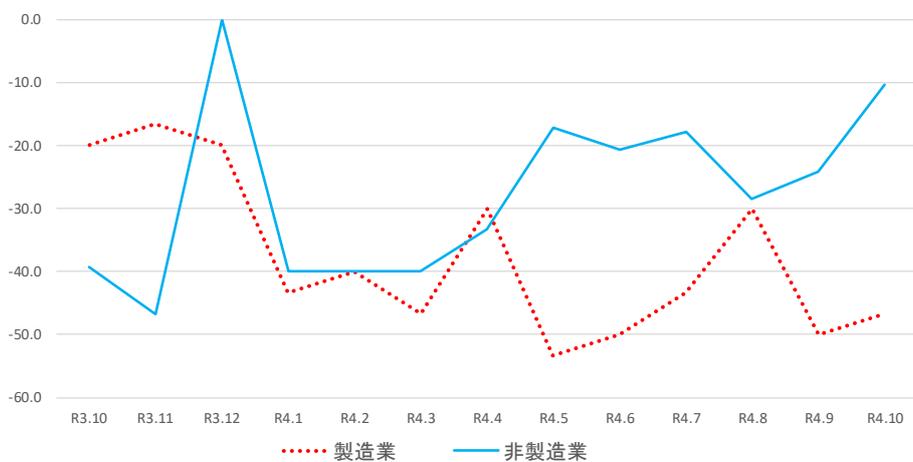
収益状況	R3.10	R3.11	R3.12	R4.1	R4.2	R4.3	R4.4	R4.5	R4.6	R4.7	R4.8	R4.9	R4.10
製造業	-20.0	-16.6	-20.0	-43.3	-40.0	-46.7	-30.0	-53.4	-50.0	-43.3	-30.0	-50.0	-46.7
非製造業	-39.3	-46.7	0.0	-40.0	-40.0	-40.0	-33.3	-17.2	-20.7	-17.8	-28.5	-24.2	-10.4

業界の景況	R3.10	R3.11	R3.12	R4.1	R4.2	R4.3	R4.4	R4.5	R4.6	R4.7	R4.8	R4.9	R4.10
製造業	-30.0	-16.6	-20.0	-33.4	-43.4	-36.7	-23.3	-46.7	-50.0	-36.6	-30.0	-46.7	-43.3
非製造業	-39.3	-30.0	-16.6	-46.6	-50.0	-30.0	-30.0	-17.2	-27.6	-21.4	-17.8	-27.6	-17.2

【売上高／製造業と非製造業の比較 DI 値】



【収益状況／製造業と非製造業の比較 DI 値】



【業界の景況／製造業と非製造業の比較DI 値】

